視えます、未来！

『視えます、未来！』　前里光秀

● 前里光秀プロフィール

― 第1章　現実創造の仕組み ―

● 幼少期から亡くなった人がよく見えた
● ヘミシンクのセミナー中に起きた、宇宙人とのコンタクト
● 今の時代に生まれている人に共通した使命
● 現実創造の基本となる「観念」について
● 好きなことをやらないと上手くいかない
● 多くの人に共通している「観念」＝「自分にはできない
● 神社に神様はいない
● 人の価値は、はじめから終わりまでずっと満タン

●怒ることをやめると、病気は改善する
●自分がもっている「観念」を探すには
●百パーセントの創造力を使って、五十パーセントの自分をつくっている
●神様が運命を決めているわけではない
●自分の使命に出会う方法

―第2章　質疑応答―

●幸せが手に入った後は、何をしたらいいですか？
●自分が現実をつくっているのに、なぜこんな現実なんでしょうか？
●才能はどこからもってくるんですか？
●「願望」と「手放す」について
●選ばれた人だけが霊的な仕事をするんですか？
●もっていることを意識できる観念と、できないと観念があると思うんですが・・・

●「貧乏になる・・・」という声が心の奥から聞こえてきます
●四年前に突然父が他界したんですが・・・
●「脳をいじられる体験」などは、自分で「そうなりたい」と思えば可能になりますか？
●「インナーチャイルド」を癒す方法を教えてください
●三年前ぐらいから、「脳をもまれているような感覚」があるのですが・・・
●気づいただけで、観念を手放すことはできますか？

※本書は、二〇一〇年九月一二日に開催された『前里光秀講演会』を文章化したものです。

● 前里光秀プロフィール

司会

本日は、『前里光秀講演会』にご来場いただいて、誠にありがとうございます。講演に先立ちまして、前里光秀さんのプロフィールを簡単にご紹介させていただきます。

一九七七年沖縄県に生まれる。八年ほど前から那覇市内で個別指導学習塾を経営。二〇〇七年五月、米国モンロー研究所のヘミシンク技術で爆発的な覚醒を遂げる。その後も非物質存在であるロバート・モンロー、エドガー・ゲイシー、『医師団』と名乗る存在達からサポートを受けて、学びを深める。

二〇〇八年六月、楽しい非物質世界での活動方法と、人生の楽しい生き方、これらを多くの人に伝えるため活動を開始。

現在は主に沖縄と東京、関西で『個人カウンセリング』『企業顧問』『各種ワークショップ』『チャネリング会』などの活動を展開。今後更に活躍の場を広げ

ていかれると思います。

それでは皆さんお持たせ致しました。前里光秀さんのご登場です。

大きな拍手でお迎えください。

会場　（拍手）

― 第1章　現実創造の仕組み ―

● 幼少期から亡くなった人がよく見えていた

はじめまして、前里光秀です。今日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。

まず自己紹介からしたいと思います。

僕は今カウンセラーとして仕事をさせていただいていますが、現在も塾を経営しています。九年目になります。一般的に普通の人ではあるんですが・・・ちょっと小さいときの話からしていきますね。

僕は一歳半のときに母親を亡くしました。それが関係しているのかどうかわからないですが、「亡くなった方が見える」ということがよくありました。ただ、

そのときは相手が何をしゃべっているのかわかりませんでした。よく出てくるのは、実は母親だったんですけども（笑）。あまりの怖ろしさに泣きわめいていました。

中学から高校ぐらいの時期に、そういうことがちょこちょこありました。それで「光秀は霊感が強いんじゃないか」と周囲から言われたりしていました。もちろん、そのときはまだ、コンタクトはとれません。相手が何をしゃべっているのかはわからなかったんです。

●ヘミシンクのセミナー中にはじまった、宇宙人とのコンタクト

それから大人になって普通に仕事をするようになって、二〇〇七年に『ヘミシンク』という音響技術を用いたセミナーに参加したんです。ヘミシンクというのは、ヘッドホンの左側と右側から別々の周波数の音楽を聴くことで、脳の中で共鳴現象が起こり、それで意識が分離する・・・いわゆる「体外離脱」を起こす道具なんです。

そこに参加したときにはじめて、いろんな方の後ろに過去生があるというか、そういうものがいろいろ視えはじめました。その中で、これまでに学んできたことを話していきたいと思います。

セミナーに参加して二日目です。ＣＤは寝て聞くんですけど、寝ていると意識だけが起きているんです。でも体は寝ている。イビキをかいていたりするのがわかったりします。

そのときに、宇宙人に脳をいじられるような体験がありました。そのときはも

う、頭の中をいじられているというのが自分ではっきりわかるんです。それを後ろから見ているような状態でした。その後から本当に、更に「視える」ようになりました。

いろんな人の後ろにいる人が、あまりにも出てきて。ちょっと問いかけをすると返事が返ってくるということも体験しました。「非物質の人というのはいるんだな」ってわかって、そこから活動してきました。

その一年後にもう一回、ヘミシンクのセミナーに行ったときに、宇宙人が三十人ぐらい来て、コンタクトをとってＵＦＯにも乗りました。もちろん、非物質で、です。体は置いておいた状態で、魂だけ抜かれるような状態です。

その後からセミナーをはじめました。なんでそういうことをやっているかというと、はじめは宇宙人とか正直怪しいと思っていました。意味もわからないし。でも、いろいろ聞いてみると、宇宙人は三百年ぐらい前に人間を体験して終わっている人たちなんですね。だから、人間がもつ恐怖心や思考回路など、そういったものを全部熟知している存在なんです。

それで「幸せになる方法」というものを色々学んできました。それを伝えていきたいと思ってセミナーをやっています。

よく言われるんですが、宗教ではありません。その理由の一つとしてあるのが、僕に依存することは一切求めていません。また、依存してくるような方に対しては距離を置きます。「依存する」というのは、何か神様みたいな存在がいて、そこ頼るというか・・・。僕も神様とか信じていましたが、そうじゃなくて、自分自身で世界をつくっているというのが、今はっきりわかるんですね。

● 今の時代に生まれている人に共通した使命とは

はじめての方もいらっしゃると思うので、基本的なところからお話をしていきます。

まず、今この時期に生まれている方には共通した使命があります。

「意識が拡大する」「人類はひとつである」ということに気づく。それが共通の目的です。それを学び取るために来ている、というのが全員共通している部分です。

一人ひとりというのは分離して見えますが、本当は、根っこの部分ではひとつなんですね。「ワンネス」という言葉を聞いたりすると思いますが、それはこれからも、どんどんいろんなところで耳にすると思います。

宇宙とか地球とか、この３次元の世界も、非物質の世界も、「すべてがたったひとつしかない」という部分を、どうしても学ばないといけない。学ぶために

生きている、というのがあって、そこがすべてのスタートになります。

今の話も「なんかどこかで聞いたことあるな」って思ったと思います。

例えば誰かに会ったときに、「体調が悪そうだな」ってなんとなくわかったり、「この人はうまくいってそうだな」とわかったり、「すごく悩んでいそうだな」ってわかるというのが、「ひとつである」ということの証明です。もともとひとつなので、相手のことは全部わかります。そこを認識する中で、現実をつくりあげていくことができるんです。

では、さっそくはじめていきます（ホワイボードを使った説明がはじまる）。

● 強く信じている「観念」からはじまる現実創造のメカニズム

基本的な部分として、自分が望む現実や体験したい現実・・・「こういう人生を歩みたい」とか、そういう思いをみなさんもっていると思います。そのつくり方の基本として「観念」というのがあります。その反応として「感情」が出てきます。「文句を言われたらキレる」とか、「文句を言われたら悲しくなる」とか、人それぞれ違います。

それに対して「やっぱり自分はダメなんだ」という「思考」が伴って、考えていることが波動として表に出て、それが返ってきて目の前の「現実」をつくります。これが基本の方程式です。

これを知るためにも、さっき言った「ひとつである」ということをまず理解する必要があるんです。これは物凄く効果があって、僕自身もそれを聞いて、いろんなところで試してきました。

観念というのは、自分が強く強く信じていることです。これが自分では、なか

なかわからないところがあります。

今の時代は経済危機に陥っていると言われたりしますが、「そうだよなぁ、今不況だもんな」って、その考え方を自分の中に入れると、自分の生活は不況の影響を必ず受けるんです、必ず。これがその力学なんです。「自分は周りの人が言っていることを鵜呑みにしているんじゃないかな?」ということです。

●「子育ては大変だ」という観念がつくる現実

そのスタートというのは、小さい頃に、実は親からもらうんです。だから、子どもは親に似ます。お母さんが赤ちゃんにおっぱいをあげるときに、同時に自分が持っている観念を注いでいるんです。これが子育ての一番根っこの部分として、理解しないといけないところです。

僕は教育業をやっているので、その話も、わかるお母さんには説明したりします。自分がそれを注ぐことによって、子どもが自分に似てきたりします。また、自分がクリアしないといけないような出来事を、見て見ぬフリをすると、それが綺麗に子どもにきます。

例えば自分自身の我が強い場合、子どもが自分以上に我が強くなったりします。それを見て「似ているな〜」って、そこで学びを得ないといけないです。子どもは協力関係において、そういうことをやってきます。お母さんがイライラしたりすると、子どもはよく泣きますよね。子どもはお母さんの感情を感じながら生活しているんです。

「子育ては大変だ」という強い信じ込みがあると、イライラするんですね。

そうすると、それを感じた子どもが泣きます。そして、またイライラする。これを繰り返すと、その思い込みが外れなくなるんです。強くなっていくんです。思いの重量というか、思考の重みがどんどん増していくので、現実を変えにくくなっていくんです。観念というのは、そうやってどんどん重みが積み重なっていきます。

大事なポイントとして、良い観念は問題ないんですが、自分が望まない現実を体験するような観念は、なるべくもたないほうがいいと思います。

例えば結婚生活を送る上で、ずーっと仲良くしていたいって思っていて、努力もしている。だけどうまくいなかい・・・ギクシャクしているというのは、どこかの部分で、何か自分の取り決めがあるんです。この取り決めが最終的には現実をつくるんですね。だからこそ、自分の中でどういう考えが一番深いところにあるのかというのを探していくことが大事です。

僕が基本的に教えているのはこういうことです。だから、スピリチュアルといっても超現実的な話なんですね。では、もっと観念の話をしていきましょう。

観念がないと、この3次元を体験できないようになっています。

「イスに座ることができる」という考えあるから、今イスに座れるんです。それも観念がやっていることです。少し難しいかもしれないですが、ここを理解していくと現実が変えやすくなります。

僕はカウンセリングをはじめて二年ぐらいになります。

質問する方は、ほとんどが「収入を上げる方法を教えて下さい」とか、「恋愛がうまくいかない」とか、「透視の方法を教えてくれ」とか、「今すぐ変えたい」という思いをもっています。それで、この話をほとんど全員にしてきました。そのぐらい大事なんです。

いきなりもう本質の話に入っていますが、結局僕が大事にしているのは・・・宇宙人とコンタクトをとるとか、そこはあまり意味がありません。「その宇宙人は誰なんだ？」とか、「前里光秀が話しているから」とか、「合っている」とか「合っていない」ではなくて、僕が出す情報だけを見ていただけたらいいのかなと思います。

自分の生活に使えそうなものだけ、今日持って帰って使ってみる。使えなさそうなもの、よくわからないものは捨てる。それで問題ないと思います。

● 生き方に無理をせず、自分が好きなことをやる

では、収入の話をします。例えば「ワクワクしたほうがいい」とか、いろんな本にも書かれていますよね。僕も『ワクワク♪スピリッツ』というラジオをやっています。

ここからちょっと本番になるんですが、まず自分が好きなことをやらないと、なかなか上手くいきません。そこが凄く大事な部分です。

でも、「自分が、何が好きなのかわからない」という質問も多いんです。なぜ自分の好きなことがわからないかというと、今までずーっと無理をしてきているからです。その無理が普通だと思うレベルまでいくと、自分が何をしたいのか、わからなくなるようになっています。

意味伝わりますか？

もう一度言いますね。無理をずーっと続けると、自分が何がしたいのかすらわ

からなくなるんです。

今、自分が何がしたいのかを考えてみて、よくわからないって思う方は、どこかで凄く長い間、無意識のうちにずーっと無理を続けている可能性があります。だからまず、無理をやめる。どのへんから無理をやめるのかというと、例えば「無理して人に合わせて笑う」とか、「面白いことを言わないといけない」とか、そういうのからはじめます。これも、無理をしてストレスになっています。

実際にそういう相談があるんです。

「人前に出ると面白いこと言わないと・・・自分はそういう役回りだから」とか、「ウケないとちょっと落ち込む」とか。「あなた芸人ですか？」って話になるんです。面白いことを言いたいときは言う。でも言いたくないときは言わない。これが、自分の思うように生きるということです。

次に、例えば収入が今十万円の人がいるとします。月５０万円欲しいと思うのであれば、「月５０万円欲しい」と思うようにする。そして、身内の方にだけ

でもいいので、「５０万円ぐらい収入が欲しいんだよね」って言ってみる。これが普通の生き方なんですね。

だけど、「言うことすらバカにされるんじゃないか?」とか、そんなこと言ったら「あなた何言ってんの？　資格もないくせに」って言われるんじゃないかってなると思います。まずはそこから変えていくことですね。確実に現実が変わりますよ。

なぜ変わるのかというと、自分がやりたいことをやろうと思うと・・・（ホワイトボードに書き込んでいく）。

例えば自分の観念が「Ａ」だとして、別の方の観念が「Ｂ」だとします。みんな、今自分が住んでいる世界は普通だと思っているんですよね。観念にはそういう性質があります。そして、別の方の観念を見て「それは無理だ」と思うんですよ。

これが観念の一番強い性質です。

「カウンセラーとして活動したい」と、今この瞬間に僕を見て思う方がいたら、それは無理なことじゃなくて普通にできるんです。ただ、自分の観念の性質として、「他の人の在り方をとるのが無理なように見える」というのがあります。この、たった一個だけのおかげで、無理をしないといけないようになっているんです。

他の人の在り方を見て、「ああいうふうに自分もやりたいな」と思えば、素直に口に出したほうがいいです。そうすると、難しいと思っていたものがどんどん溶けていく。「現実がやわらかくなっていく」という言い方をしたりします。これも、もちろん宇宙人から学んだことです。

例えば月収二十万円の方は、来年も再来年もだいたい二十万円です。五十万円の方は五十万円が当たり前だと思っています。一千万円の方は一千万円が当たり前だと思っているから、上下があったとしてもだいたい一千万円ぐらいなんですよ。

それと同じように、自分が今いる世界は当たり前に思えるんですけど、別の人がいる世界は無理なように見える。これさえ忘れなければ現実は変えていけます。

このスタートを絶対に忘れない、というのがすごく大事です。

観念の性質としてそういうものがあります。順に見ていくと「観念←感情←思考←現実」という仕組みになっています。

● 多くの人に共通している観念＝「自分にはできない」

いろんな方の相談を受けてきて、一番多かったのが「自分にはできない」というものです。「自分は資格ももってないし、普通のお家で育ったし、お父さんもお母さんも普通で」という。そういう方がものすごく多いんですよ。

セミナーやカウンセリグをやってきて、一番多く受けるのがそういう質問です。とにかく「自分にはできないんだ」ということをフルでアピールするんですよ（笑）。カウンセリングのときは面白いぐらいですよ。僕自身は録音をしないのですが、帰ってから何度も録音を聞いている方は自分でわかると思います。

「何かやりたいことはないですか？」
「スピリチュアルカウンセラーになりたいです」
「では勉強して、自分がいいなと思う時期にやったらいいじゃないですか？」

「いや、でも自分には絶対にできないです。そういう勘もないし、霊的なものもないし・・・」

という感じです。

でも、今ある世界から移るときに、そういう発言になるのは当たり前なんです。なぜかというと、「AはBができないように思える」という、この性質があるからです。「どうしても、どうしても、どうしても、絶対にできないように思えてしまう」というのがあります。だからそういう発言になってしまうんです。

もちろん、僕もそれを聞いてイライラするわけではありません。「そういう性質がある」ということを僕は知っているので。「そういうことではないですよ」って淡々と説明していきます。それで「じゃあ自分も何かやってみようかな」ってなったときに、「今の自分ができる範囲のことで、一番楽しいと思うことをやる」というのが重要です。

いろいろやることがあるにせよ、一番楽しいなと思うことをやる。これがまず

第一歩です。

例えば「スピリチュアル関係の仕事がしたい」という方も何人かいらっしゃると思います。そういうときに、こういう講演会に足を運んでみるとか、スピリチュアルの本を買って読むとか、自分で少し練習しみるとか、今すぐにできる一番楽しいこと、ワクワクすることをできる範囲ではじめていく。そうすると、もっている観念が、ガタガタッ！って崩れるんですね。

もっている観念が崩れることで、別の在り方に移ります。自分が望んでいるところにスーッと移動するんです。

こんなに簡単なのに、いろんな理由をもってくるんです。カウンセリングのときに、僕に「なぜ無理なのか」というのを、みなさん頑張って発表されるので、僕も困るんです（笑）。

そういう気持ちはよくわかりますが、でもそのぐらい「自分がやりたいことをやるのは無理だと思う」というのが先にくるんです。でも、それは無理じゃな

い。

ではどうやったらできるのか？

それで神様にお願いする方もいます。僕も昔はそうでした。でも今神社に行ってみると、神社には誰もいませんでした（笑）。そういうこと言うとあれなんですが・・・。

でも、「自分が好きなものを信じる」というのは、別に悪いことではないです。ただ、僕からすると神様に頼るとか、ガイドに頼るとか・・・ガイドに頼るというのも実は変な話なんですけどね。

ガイドというのは、自分の過去生の存在なので、神様ではないですし。

● 亡くなって三時間後、おばあちゃんが教えてくれたこと

神社に神様がいるのか？
お寺に神様がいるのか？
亡くなった先祖を拝まないといけないのか？

僕は沖縄県出身ですが、沖縄の場合は「先祖を拝まないと発展しない」という文化があるんです。それで僕もいろんなお願いを何回もしました。そういう「拝み」というのがあって、それが終わって「どうでしたか？」ってユタ（霊能者）に聞きに行くんです。

すると「今回はやっぱり受け止めないって言っています」とか、こういう話が普通にあるんです（笑）

こういう環境で僕は育ってきたので、普通に神様はいると思っていました。

ですが、僕の亡くなったおばあちゃんが・・・僕のおばあちゃんはその文化に

どっぷり浸かっていて、「死んだ後のことをやらないと大変だ」「そのまま何もしないでそのまま死んだら責められる」って言っていました。そういう文化なんです。それをずっと心配していたおばあちゃんが、亡くなって三時間後に出てきたんです。

すると、「そんなものはなかった」と言っていました（笑）。

「マジっすか？」ってなりましたね（笑）。僕たちはそれで十年ぐらいミーティングしていたんですよ。

僕はおばあちゃんに育てられましたが、おばあちゃんは世界一神経質な人でした。「死んだ後、叱られる」って、この話題が何度も何度も・・・多分、何百回も話をしましたね。僕が「大丈夫だと思うよ」って言ったら、「なんでそう言えるのか？」って問い詰められたりしたんですが、本当に僕はそう思っていたんです。

そして、おばあちゃんが亡くなりました。亡くなって三時間後にですよ？　普

通に出てきて、「それはない」と。

僕は実体験のことも含めて話をしています。もちろん、僕が言うからといって「必ず鵜呑みにしてください」ではありません。先程も言いましたが、「僕の話を信じてください」ではなくて、僕の情報だけを見て使えそうなものは使ってみる。そうじゃないものは捨てる。そのスタンスが一番いいと思います。

宗教観念とか文化とか、地域によって考え方が違います。

●人は、はじめから終わりまでずっと価値満タン

それは別に悪いことではないのですが、僕の見解として知っていることは、「僕達は誰かに依存して生きているわけではない」ということです。はじめから終わりまで価値は満タンで、ずっと自分の足で立っています。

それを完全に忘れている。僕はそれに気づいたので、なんとか伝えたいと思って今の活動をやっています。

誰かにお願いして・・・例えば神様に「絶対にああいうふうになって、良い子にするから」と言っても、それを神様が実現するわけではありません。実現したとしたら、それは自分の力で実現しています。それを自分の中に入れるのが、意外に怖いことだったりするんですよ。

なぜかというと、もう頼れないからです。

「自分の現実は、すべて自分でつくっている」というものに対峙しないといけ

ない。これが意外に、みなさんが恐怖心をもたれることなんです。「自分の価値は満タンだ」ということです。

自分が体験している世界というのは、自分の「顕在意識」と「潜在意識」・・・そのどちらかが望んで望んで望んで「今、目の前にある現実」をつくっています。発注者は自分です。

ピザを頼んでピザが来て、「違いますけど」ということは起こらないですよね。自分が頼んでいないことは絶対に起こらないです。目の前で起こっていることはすべて正しいです。これは僕の見解ですが、この強烈な事実を受け入れるのが、ものすごく難しいと思います。

なぜかというと、自分は別に病気をしたくてしているわけじゃないし、お金の心配をしたくてしているわけじゃない。そんなことありえないと、だいたいの方が怒るんですよ。でもその事実に、僕の見解としてズレはなかったです。

宇宙人が言っていることを、僕自身は実践してきています。

まずは、自分が望んで望んで今の仕事に就いている。自分が望んで望んで、週休二日を良しとしている。ものすごく忙しい環境の中で仕事をやっている人は、それが嫌なら辞めているはずです。結果的にいろんな理由があって、「世の中が不況だから」とか、「今辞めたら大変だ」という理由を集めてきて、「自分が望んでいる」ということを消すんですよ。

潜在意識の声が聞こえなかったりすると、少しわかりにくいかもしれませんが。僕が本音で思うこととして、一番大事なことがこのことです。今まで、本当に自分でもびっくりするぐらい、たくさんのことを聞いてきました。

「自分の目の前を、自分が望んで望んでつくっている」ということがわからないと、目の前の自分がつくった現実を否定することになります。否定する思いをもっていると、また否定をするような現実が返ってくる。

まとめると、「自分自身が与えたものしか返ってこない」ということです。これにズレはないです。

「与える」というのは、最終的には思考ですね。この思考の、もとのもとは観念です。最終的にはここにいきます。自分が何を信じているのか？　どんな観念をもっているかによって、目の前に映る現実が変わるんです。

観念というのは、自分が一番、強く強く信じ込んでいること。当たり前だと思っていることです。

年収の話は本当にわかりやすいと思います。「一千万円は普通だ」と思っている方は、いろいろ努力があるにせよ、だいたい一千万円というのを実現します。でもその人から考えて、年収二百万円は考えられないです。なぜかというと、先程お話した、「A」と「B」の観念の違いがあるから。

他の人がやっていることは難しそうに見えたりします。「これはちょっと、自分にはあり得ないな」って思ったりします。

それが悪いわけじゃないですけど、最終的には自分の観念というのに繋がっています。そこに戻るんです。どんな観念をもつかによって、与えるものが変わ

ります。「与えるものが変わる」ということは、「体験する現実が変わる」ということです。

● 宇宙人が目の前に来ない、人の深層にある恐怖心

「今、何も問題なく幸せだ」という人は、実際に何も問題はないかもしれないです。

ただ単に、宇宙人とコンタクトをとりたいという方も、いらっしゃると思います。でも、「宇宙人とコンタクトをとりたい」と言っている人の横に、僕が宇宙人にお願いして存在してもらったとしても、その人は絶対にそこを向かないです（笑）。

向いたとしても、そのときは記憶喪失になっているような感じで、視界には入りますが、「見ている」ということを許可しないので、「見えている」というところまでいかないだけなんです。望んでいることは、目の前にスッときます。ただ、「見えている」というところまでいかない。

なぜかというと、宇宙人が怖いからです（笑）。

何が怖いかって、周波数とか波動が違うからです。ものすごく加速しているカーレースの車がボーンッ！と飛んでくる感じがするんですよ。それが近くに寄ってくると、言葉にできないような恐怖心がグ～ッと湧いてくるんですね。

例えば「暗闇が怖い」とかそういう感じで、「理由はわからないけど怖い」みたいになると思います。「暗闇が怖い」ってなっているのも、小さいときに「暗いところに行ったら危ないよ」って、お父さんやお母さんに言われたからです。それを中に入れると「暗闇が怖い」という体験をします。だから、暗いところにいると、ものすごく怖い感情が出ます。

それはすべてが観念によって設計されているからです。

「スピリチュアルって、なんかワクワクして楽しくて」というイメージをもっている人もいると思います。もちろん、それにズレはないですが、「本当に目の前を変えていこう」ってなったときに、こういう仕組みがわかれば、淡々と変えていけます。

恐怖心もあるので、課題にぶつかって「やっぱり嫌だな」ってなって、戻ったりするような現実もあるかもしれません。でも、こういう方程式が頭の中に入っていると現実は変えやすくなります。

● 怒ることをやめると、病気は改善する

例えば最近カウンセリングをした方で、「世界平和を目標に生きている」という方がいました。ただ、その方は少し病気を患っていて、いろいろ話をしていく中でわかったことがありました。

その方は「日本の外交の不甲斐なさが許せない」と言っていました。「今の世の中のあり方とか、不況を何とかしないといけないのに、なぜそれをやらないんだ」と。そういう部分に対して怒りがあったんです。

その怒りのせいで、本当は世界平和を目標にしているんですが、無意識にずーっと体が怒っているような状態になっていました。イライラしているんです。人間的には素晴らしい方でしたが、すごく神経質な方でしたね。

今の現実を見て「やっぱり日本はおかしい」とか「政治がおかしい」というので、世の中を良くしたいという思いが、逆に周りに対して強い否定を向けるかたちになってしまった。与えたものが返ってくるので、怒りを出すと、体が病

気をします。なぜなら、健康な状態というのは調和がとれた状態だからです。喧嘩の波動やイライラする波動を投げると、それが戻ってきて、心臓と胃の波長が合わなくなります。骨と神経の波長が崩れたりもします。調和が崩れたときに病気は起こります。そういう状態が返ってくるんです。

だから、「病気を患っているのですが、原因は何でしょうか?」と質問してくる方で、単純に「怒ることをやめてください」という方もいっぱいいます。「いやいや、怒ることをやめたって、それで治らないでしょ」というのは、本人の思い込みです。

そのぐらい自分が怒っていて、「外の世界に対して何を投げているのか」というのを、冷静に自分で振り返る必要があります。自分自身の内面が怒っているのか、穏やかなのか。本当は人が好きなのに、「嫌い」って思ってないか。「人がたくさんいる場所にいると体調が悪くなる」と思い込んでいないか。

「人ごみの中にいると気分が悪くなる」というのは、周りに対しての否定が入

っています。そうするとまず、人間関係が上手くいきません。

それでも、現実を見て見ぬフリをしていると、病気というかたちをとるか、家族関係がゴタゴタするとか、いろんなかたちで目の前にトラブルが起こります。それを見て「はぁ・・・」って嘆いて、神社でお祈りをしても治りません。なぜかというと、この仕組みがわかってないからです。

自分の現実を変えようと思ったら、内面を変えるしかないです。拝むことによって、これが変わるわけではありません。では、どうすれば変わるのかというと「あっ、人を否定していたんだな」と気づくことです。「気づく」というプロセスがすごく大事です。自分が気づいてしまえば、握っている観念を落とすことになります。

この世界の中にいると、自分がどんな観念をもっているのかわからないです。しかしその世界から離れたときに、「昔はこうだったな」ってわかりますよね。「気づく」というプロセスは、もう離れて終わっているんです。自分自身が日々怒っているのか、喜んでいるのか、悲しんでいるのか、人を恨んでいるのか・・・。

● 不登校の子どもが教えてくれる親の課題

例えば親子関係が上手くいっていない方は、なかなか人生が上手くまわらないです。

理由は簡単で、親に対しての怒りをもっているからです。怒りの原因は、「もっと愛されたかった」というのがスタートになって、自分を被害者だと思っているからです。被害者には加害者が近寄ってくるようになっています。これが仕組みです。こういうところをしっかり認識していく必要があります。

怒ったり恨んだりすると、その波動がスーッと外の世界に出ていきます。そして、一ミリのズレもなく出したものが返ってきます。「目の前で起こっていることは、すべて正しいと思ってください」と言ったのは、そのスタートが、自分がもっている観念だからです。それが設計の元になっています。

「私はスピリチュアルも勉強しているし、いろんなこともわかるから、人生がすごく楽しいの」と言っている方で、よくよく話を聞いてみると、子どもが不

登校でずっと学校に行ってないというケースがありました。「彼はずーっと不登校だけど、別に責めることはなく、私はそのままでいいと思っている」と。だけど、本音をずっと聞いていくと、凄い悩んでいるんですよね。それを、「無理」って言うんです。

そのままにしてあげることが大事な場合もありますが、そういう方に僕がはっきり伝える内容があります。

それは、「自分がクリアしないといけない課題を、見過ごしている可能性がある」ということです。自分の子どもに、「こうしなさい、ああしなさい」「宿題やったの？」「ちゃんと先生の言うこと聞きなさい」「あなたはもう全然ダメなんだから」って、ずーっと否定していると、「やっぱり自分はダメなんだ」って子どもも思いはじめます。結果、不登校になったりします。

僕は塾を経営しているので、不登校の生徒をたくさん見てきました。そういう場合は必ず親を呼んで、お母さんに淡々と話をします。六年間不登校だった子

が、一ヶ月で治ったこともありました。話をしていけば、こういう子は治るんです。

問題が起きたとき、家族の協力は凄く大事です。

自分が与えたものが自分に返ってくるのですが、家族が基本にあります。家族が自分の協力関係になっているので、自分がクリアしないといけないものを、子どもが変わりに在り方として見せている場合もたくさんあります。「自分は問題ないけど、子どもがね・・・」ではなくて、「自分の中にクリアしなければいけないものがあるんだ」と考える必要があります。

自分を否定するわけではありません。

ただ単に「クリアしなければいけないものがあるんだ」って考えて、「何があるのかな？」と冷静に見つめていく。否定していると原因が見えません。「自分がどんな観念をもっているのか？」ということです。

●子どもがもっている観念を探すには、何を教えたのかを見ていく

「どんな観念をもっているから、今の現実を体験しているのか？」

それを冷静に探そうとすると、「もしかしたらこれかもしれない」というものに気づきます。人間には直観力があるので、それで気づくようになっていきます。

基本的には、「与えたものが返ってくる」という法則を考えてください。

その与えるものの元々の部分は「観念」がスタートになっています。では、「どういう観念を入れるのか」という部分ですが、そのときに一番大事なのが、親が与える知識です。「あなたはこうなのよ」って言われた部分を、子どもは自分の中に入れていきます。

「あなたは本当に気が利かないわね」「真っ直ぐすぎて、全然周りのことなんか気にしないわね」と、ずーっと言っていると、周りの人が見えない人になっ

てしまいます。「自分は周りが見えない」というのを取り入れてしまうからです。

だからこそ、子どもを見ましょう。

その子の性格を否定するのではなくて、「自分が何を教えたのか」という部分を見ていく。すると、「この子はこういう観念をもっているな」とわかるようになります。それは、他の方と話をしていてもわかるようになっていきます。いろんな人の話を聞いて、「この人は楽しそうにしているけど、ちょっと否定的な観念をもっているな」とか、そういうのを見つけやすくなっていきます。

元になる観念というのは、どこかから仕入れないといけません。仕入れ元は、ほとんどが親です。親、兄弟、学校・・・そして、世の中の情報とか常識とかもありますが、家庭が基本です。

● 百パーセントの創造力を使って、五十パーセントの自分を創造する

だからこそ、与えるときに大事なのが「生まれてから死ぬまで、人間の価値は満タンだ」という考えです。これを僕は宇宙人から聞きました。はじめは何を言っているのかわからないから、さすが宇宙人だなって思いました。

これが言っているのは、「あなたは元々満点だし、満タンだから生まれて来られるんだ」ということなんですね。「あなたは、本当は百点を取らないといけないけど、九十点だよね」ではなくて、「元々百パーセントの創造力をもっていて、その百パーセントの創造力を使って、今の五十パーセントの自分をつくっているんだよ」ということです。

意味わかりますか？　元々百点なんです。

何でもつくれるこの百点のパワーを使って、二十パーセントの人生をつくったり、七十パーセントの人生をつくったりします。それを誰が決めているのか？本人が決めています。

「自分の価値が満タンである」ということを認識して、子どもに対しても「あなたは、ずっと価値は満タンなんだよ」って教えてあげる。すると、子育ては上手くまわります。もちろん、これは子育てだけではありません。人間関係全般において、そういうことが言えます。

自分のことを満点だと思ってない人は、周りの人に対してもそういう見方をします。「あの人は、こういうところはいいんだけど、こういうところがちょっとね・・・」というのが強かったり・・・。自分自身が七十点の人は、周りの人も七十点で見ようとします。自分を二十点に下げている人は、周りの人も二十点に見えます。

その段階で辛い人生なんです。

わかりますか？　自分の波長と同じものが共鳴して目の前に近くに寄ってくるんです。

本当に楽に、幸せになっていこうとするときのポイントは、「自分の価値は満タンなんだ」って上げていくことです。

これをやることによって、満点に映る方しか自分のまわりに寄ってこないようになってきます。その副作用として、もしかしたら今いる会社を辞めることになるかもしれません。それでも、移動して行った先には、全然今までと違う会社環境があったりします。

そうやってプラスに向かっている状態の方に、「会社を辞めたいんですけど、どうでしょうか？」って聞かれたら、「いいんじゃないですか？」って僕も言います。でもそうではなくて、「怖ろしく嫌な社員ばっかりいるから辞めたい」って思っている方は、周りに対して否定をもっているので、どこへ行っても幸せになりません。

幸せにならないというか、否定している以上は、出すものが否定なので返るものも否定なんですよね。「自分の価値が満タンだ」って知らないから否定するわけで。「自分の価値が満タンだ」って認識すれば、「今の会社を辞めたいな」

って思っても、もちろん問題ないです。

ただ、周りを否定している以上は、何か別の場所に移ったとしても・・・幸せは心の中が決めるので、環境を変えるだけではそういうシフトが起こらないです。

別の世界に移ることはできない。

●カレーを注文して、カツ丼は来ない

「自分の価値は満タンだ」ってわかってくると、すべてがシンプルになっていきます。

例えばレストランに行ってカレーが食べたいと思ったら、カレーを注文してカレーを食べる。そういうのを淡々とやります。だけど自分の価値を下げている方は、「カレーにしようかな・・・カツ丼にしようかな・・・」と、注文するときにものすごく力を入れるんです。

「どれにしようかな・・・」「もしかしたら、カレーを注文してもカレーが来ないかもしれない・・・」という状態なんです。笑える状態なんですね。当たり前ですが、カレーを注文すれば、カレーしか来ません。

出したものが返って来るから、です。

それでも、「自分の価値が低い」と思っていると、「カレーを注文しても、絶対

にそばが来るんだ・・・」「そばしか来ないだろう・・・」「なぜかというと、あのお父さんとお母さんに育てられたから・・・」みたいな感じになるんです。

会場　（笑）

今笑った方は、実は自分がもっている観念を手放せたから笑っているんです。

「笑い」は凄く大事です。笑うことは人間の周波数を一番高くするんです。笑ったのは、その瞬間に今もっている観念が崩れた証拠です。今、軽く笑った方は、自分が凄く力が入っている状態にいて、「あっ、力が入っていたな」って気づいたから笑ったんですね。

これまでは、カレーを注文してもそばがくるんじゃないかと疑っていた・・・それをいろんなところでやっていた。さすがに、レストランでそういうことはないかもしれませんけど。そういうことをやっていたのが終わった瞬間でもあ

るんですね。

本当に自分の価値を上げていかないと、そのぐらいおかしなギャグみたいなことを、人生のいろんな場面でやるんですよ。カレーを注文したら、カレーが普通に来るでしょう。これって、当たり前だと思いますよね。

この、当たり前だと思っているもの・・・それが観念です。

そのぐらい、「理想の人生」や「理想の在り方」を望むと、それが返ってくるんです。だけど「どうせ来ないんだ」って決めているのは、他ならぬ自分なんです。自分自身です。

● 神様が運命を決めているわけではない

それをどれだけ認識できるか、ですね。

今はあまり宇宙人の話をしていませんが、宇宙人が教えてくるのは、こういった超現実的な話です。さすが、人間を終わっているだけあって、いろんなことを知っています。僕が気に入ってこういう仕事をやっているのは、宇宙人に会いたいとかではなくて、凄く楽になる方法を見つけたのが嬉しかったからです。

僕は宮古島出身ですが、「神様が人生を決めているんだ」って地元の霊能者にずっと言われてきました。

「お前の進学先は神様が決めているから」って。「なんじゃそれ」と思いました（笑）。「それなら、学校の面談は何のためにあるんだ？」って思うぐらい、僕も悩みました。「絶対にあそこに行かないといけないのか？」って悩んでいたんですが、そういうのはないって知ったときに、「ここは自由な世界なんだ」って、はじめて思いました。

今、自分が体験している現実は、元をたどれば自分で決めています。それを、認めてみるんです。「どんな観念をもっているのか？」というのを探していくと、現実は変わります。

「神様が運命を決めている」ということはないです。

例えば、「運命」とか「使命」ってありますよね。カウンセリングのときに「それを教えてください」という方もいるのですが、ここで気づかないといけないポイントがあります。

それは「あれをやれ、これをやれって、操り人間のように人生が決まっているわけではない」ということです。まずはそこを理解していただきたいです。自分の人生プランを、生まれてくる前に大まかに決める方と、ものすごく細かく決める方がいます。その決めたことですら、生まれてから人生を歩んでいく中で、変更が可能なんです。

だからこそ、「百パーセント決まっているわけではない」と理解する必要があります。

自分の使命を聞いたら、なんか胸騒ぎがしてどんどん上がっていくようなイメージをもたれる方もいます。しかし、それをまず淡々と理解する必要があります。

● 過去を見る「思考」と、未来を視る「高次元意識」

自分の使命に出会いたいと思えば、一つだけ方法があります。そういった「霊的なものを、努力して視えるようになる」とかではなくて、普通にわかる方法があります。

それは、自分が「楽しいな」と感じる方向へ向かっていくことです。そうすれば使命にぶち当たります。これが法則です。

周りの方に遠慮したり、親に遠慮したり、自分に遠慮するのではなくて、自分が「やりたいな」と思う方向に淡々と進んでいくと、必ず自分が「もっともっとやりたい」と思う方向に行きます。

ここで重要なポイントがあります。

人間の「思考」は、未来を視るものではなくて、過去を見るような性質になっています。自分の頭の中で「こういうふうになりたい」と思っていて、「ここ

のＡ地点に行きたいな」と思っていても、Ｂ地点に行く場合もあります。「Ｂ地点のほうがいい」と、本人の顕在意識の上の高次元の意識が思えば、そこに行くだけなんです。

未来を視ているのは、その高次元の意識だけです。

自分の頭の中で全部未来を予想して、「絶対にこうじゃないといけない」ってやる必要はありません。「こういうふうになったらいいな」とワクワクするのであれば、それをイメージするのは大事ですが、それは一つの象徴であって、「必ずそこに行かないといけない」というわけではありません。

例えば「講演会をやりたい」と思って、実際に講演会をやったとします。すると、「お客さんは５千人ぐらいがいいと思っていたのに、十人しかいなかった」ということがあるかもしれません。

それは、そのときは１０人ぐらいがちょうどいいから、十人ぐらいの講演会の場所に行ったというだけです。そこで悩む必要はありません。その先で、どん

どんペースを変えて自分が望む方向に行く。そうやって信じる。「自分の価値は満タンで、そこに行くはずなんだ」という思いさえあれば、必ずそこに行きます。

自分がより望む方向に行くんです。

● 頑張っても幸せが見つからない理由

そして次に、「幸せの定義」についてです。

一から百まで数字があるとして、「百の場所に行くことだけが幸せだ」「こうじゃなければいけない」って決めると、空間がかたくなるんです。少し難しいかもしれませんが、そういう思いを捨てたほうが、早くそこに行きます。

例えば、「お金さえあれば私は幸せだ」と思っていると、お金にしか目を向けてないので、それ以外の幸せに囲まれている自分に気づけなくなります。ガッチガチなんです。一箇所だけを望遠鏡で見ているような状態ですからね。その望遠鏡を外すと「気がついたらこんなところにも幸せがあって」ってなります。

「絶対にこれだけが必要で、これがないから自分は不幸なんだ」という思いがある方は、それを外してあげたほうが現実がやわらかくなります。現実がやわらかくなると、そこに行きやすくなります。ガチガチだと、実はそこに行けないんです。かたまっているからです。

「空間がかたまる」という言い方をします。

その見方がやわらかくなると、そこに行くのも、物理的なものから高次元に移るようにスッと移動するような感覚で行きます。「これだけのことができたらいいな」って決めたとして・・・もちろん、特定の目標を決めるのも必要ですが、「それだけが必要で、それ以外は何もいらない」という思いをもつと、結果的にはそこに行けません。

例えば会社を経営していて、どんどんいろんなことをやって前に進んで幸せだと思っていても、「何かが足りない・・・」という方は、意外にこういうものを強くもっています。

必ず全員に当てはまるわけじゃないですが、自分の中であまりにも「こうじゃないといけない」というのがあると、そこに行きにくくなります。だからそこを外して柔軟に考える、というのが基本になります。

少し難しいかもしれませんね。

一時間ぐらい経ったので、具体的にいろいろと質問していただいて、その質問に答えていきたいと思います。

そのほうがわかりやすい、という方もいると思います。では、質問をしていただいて、それに合わせて話をしていきます。「今、こういうことをやっているが、なかなかそこに行けない」とか、「そこに行くためには何が必要なのか」とか、まったく関係ない質問でも大丈夫です。

質問していただいて、そこから学んでいくというかたちでやっていきましょう。

では、質問がある方は手を挙げてください。

―第2章　質疑応答―

【質問1】　幸せが手に入った後は、何をしたらいいですか？

Q1
はじめまして。

僕は今のところお金とか、やりたいことについては満たされています。はっきり言うと「これから何をしたらいいのか？」というところで悩んでいます。

「幸せになりたい」とか「お金持ちになりたい」ではなくて、「それが手に入った後で何をしたらいいのか？」という点について教えてください。

前里

はい。すごく個人的な質問ですね（笑）。問題ないですよ。

もう本当に、幸せの典型例だと思います。いろいろなかたちで、何をやってももちろんいいんですけども、ちょっと思考がカチって止まることもあると思います。

例としてお話をさせていただきます。

もし自分が「価値は満タンだ」というのを知っていて、望むことをすべて手にしている状態であれば、「それを誰かに伝える」という方向もあると思います。

伝えるのが目的ではなくて、伝えることを通して自分の意識が拡大していくんですね。拡大していくと、もっといろんなことがわかる状態に移っていきます。それをやっていくと自分が中心に戻っていきます。「より中心にいる」という状態をつくります。

自分が「自然な状態の在り方」をもっている状態で話をするだけで、近くにいる方の心が「あっ、中心にいるというのは、こういうことなんだ」って勝手に学んでいきます。それを伝えようとやっていくと、自分の中心の広がりが、どんどん自分でかわるようになっていきます。

望まなければそこにいかないかもしれないです。でも望んでいれば、僕と同じような状態になると思います。チャネリング状態にスッと入るというか、儀式的なことをやらなくてもスッと入る状態に行き着く可能性があります。

「これをどうしてもやらないといけない」とか「こうしないといけないんだ」というのは一旦置いておいて、自分がその状態を楽しみたいのであれば楽しむ。だけど「それを方法として伝えてあげることが自分の楽しみになる」と思えば、それを伝えてあげるという方法をとることができます。

Q1

「伝える」というのは、「人と人の間に入ってコミュニケーションをとる」と

いうことですか？　そういう活動をしていったほうがいいですか？

前里

そうですね。今、コミュニケーションとありましたが、凄く大事なポイントです。人間関係というのは「中心にいる」という状態をつくってからじゃないと、本当は成立しないということです。

自分自身ではないものになろうとするのではなく、「自分自身に戻る」という状態が理想です。それができてはじめて、人と強固な人間関係がつくれます。今はそういう状態だと思うので、その人間関係を教える役割があるかもしれません。

自分ではないものに無理やりなろうとしている方は、友人関係というのをつくっても、「なんか疎外されているんじゃないかな」「なんかちょっと寂しいな」って不安になります。そういう思いがあるときは、しっかりした人間関係がつくれてないかもしれません。

そういうときは、「自分が中心にいて、なりたい自分でいられる」というのを忘れています。無理やり別の人になろうとしている状態です。

それではしっかりした人間関係が築けない、という仕組みがあります。それを体験している。今のようなかたちで、もしかしたら「人間関係というものを伝えていく」という役割があるかもしれません。

Q1

僕は音楽をやっているんですが、今はソロでやっています。それを、これからは共演を増やしていくとか、そういう形式になっていくことということですか？

前里

いや、人間を増やしていくというよりも、「人間関係そのものについて」とか、「人が楽しいと感じる状態」を教えてあげる。それはもちろん、歌を歌いなが

ら伝えるとか・・・「歌を歌う」というのもチャネンリング状態ですからね。自然と、繋がっているような状態で歌っているんです。

それを、今度は「しゃべる」という部分にシフトする可能性もあります。

自分が感じたものをただしゃべって、「こういう状態が楽なんだよ」って伝えはじめる。すると、もっともっと自分がわかるようになります。それを絶対にやってということではないですが、そういう方法があるかもしれないので、そういう見方をしてみると見つかると思います。

Q1
わかりました。ありがとうございます。

前里
はい。では次どうぞ。

【質問２】　「私の病気も私がつくっている」というのが信じられないです。

Ｑ２

はじめまして。

私は「自分が現実をつくっている」という情報は二十年ほど前から聞いたことがあります。それは本当に真実だと思ってきました。ですが、ここ何年も、たぶん本当の自分を生きてこなかったと思います。

個人的な話ですが、二年前ぐらいから難病にかかりました。

最初は「すごくいいきっかけだな」って前向きに捉えていたんですが、どんどん体調が悪くなってしまったんです。恐怖感やパニック、うつのような状態もありまして・・・。今日も、すごく勇気を出して来た状況です。

目の前の現実を自分がつくっていると心底信じることができない・・・。

「どうしてこんな現実なの？」「どうしてなんだ？」って、ずーっとやってきて・・・でも、もうそれはやめたいって思いました。

それで『ワクワク♪スピリッツ』を聞いたときに、前里さんのそのぶれない音が・・・「目の前にあるものは、一ミリのズレもなく、あなたがつくっているんだ」という前里さんのぶれない音を聞いたときにハッとして、「あぁ、やっぱりそうなんじゃないか」って。

前里
なるほど。

Q2
すごくそれを感じはじめて、今日、是非お会いしたいと思ったんですが、目の前にあるものをどうしても否定してしまいます。

自分がつくっていると信じたいのですが、信じられないところがあります。でもそこで、「自分がつくっているんだ」というところに立たないと、自分が望む現実にしていけないんじゃないかと思っています。

それを受け入れるにはどうしたらいいのでしょうか？　また、自分のもっている観念を見つけたときに、リリースする方法があったら、知りたいです。

前里
わかりました。簡単ですね。

お名前聞いてもいいですか？

Q2
〇〇〇です。

前里
○○○さん、歩けますか？

歩くときに疑いはないですよね？　「歩ける」とわかって、確信した状態で歩きますよね？　それを「わかっている」というんです。

Q2
はい・・・。

前里
意味わかりますか？

Q2
意識的にはたぶん・・・。そこまで感じてはいないとは思うんですけど、「自分は歩ける」というふうには・・・。

前里
でも意識的にその合意がないと、実は歩けないんですね。

それと同じで、「認識はしているけど、なかなかできない」というのは、「認識することを許していない」ということです。それをまず自分の中で認めていく必要があります。

一番大事なポイントとして、〇〇〇さんは自分に対して厳しい点数をつけるんですよね。

Q2
はい・・・。

前里
普通の方にそれをしゃべったら、「なんでそこまで?」って言われるぐらい厳しさがありますよね（笑）。それをまず止める。「あっ、自分は普通に歩ける」と思ったら、「理解したな」と思ったら、それで終わりなんです。

○○○さんは、「変化は簡単ではない」という観念があるんです。

飲み込むときに、食事をするときに、そんな大変じゃないですよね。ひと口入れて「はぁ・・・」ってやらないですよね。

それと同じです。ただ飲み込む。「なるほどね」って聞いたらこれで終わりなんです。終わりなのに、「やっぱり・・・」って言って、指を突っ込んでペーッ！って出しているんですよ。

会場　（笑）

前里
それで「ほら、やっぱりわからない」ってやっているだけなんです（笑）。

Q２
はい（笑）。

前里
あと、「笑う」ということは、自分がやっていることを外から見ているということです。だから笑えるんです。強固なものがある方はそうやって笑えないです。これが証拠です。

○○○さんは自分が飲み込んで終わっているものを、またゼロに無理やり戻し

ているんです。自分に無理をかけているので、体調にもきているし、たまにイライラしたりすると思います。そうすると周りの方も困りますよね。

飲み込んで、聞いて「あっ、なるほどな」って思ったらそこで終わりです。それ以上はないです。

「私ごときがそんな簡単に理解できるはずないわ」というものが、吐き出すことにつながっています。「なるほどな」と思ったらそこで終わりです。そこで、終わりなんです。

そのぐらい単純です。それを「絶対に難しいはずだ」「こういうことはあり得ない」ってやると、今のような状態をつくります。

ここで一つポイントがあります。

目の前に嫌なことがあれば、「変えていこう」と思いますよね。

今の病気のような状態だと、自分が壁にぶち当たっているというイメージをもつと思います。でも、壁ではなくてチャレンジと置き換えると、必ず暗闇の中にも光が見えるんです。壁は壁なんです。でもチャレンジは、必ず乗り越える道があるんです。

「自分はそれを乗り越えようとして、楽しんでやっているんだ」と置くと、それを乗り越えた先で誰かに伝えるかもしれません。

僕もある病気で十年間、病院通いをしました。だから、「何でこんなに悩むんだ？」という気持ちはわかります。僕は、ちょうど十年でした。

壁だと思ってしまう・・・。

どうしてもそう思ってしまう気持ちもわかるんですが、でも壁じゃなくてチャレンジをやっています。それぐらいチャレンジャーな自分をまず褒めてあげる。そこから一歩一歩、歩みを進めていくことを喜びとするんです。自分が歩む姿を誰かが見ています。そして、誰かがかおるさんの体験を聞いて、「こうやっ

て乗り越えたらいいんだ」ってなるかもしれない。

だから、計り知れないぐらい他の人のためになるんです。

そうやって自分を許してあげると、必ず、気がついたら「あれ？　なんか終わっていた」ってなります。終わるときは、徐々に終わっていくのがわかるわけじゃありません。パッとシフトするので、気づいたら「そういえば、前は短気だったな」みたいな感じです。「最近は、よく考えたら怒ってないな」というふうになりますから。

「私はこれだけ成長した。いや、やっぱり戻っている・・・」って、この進み具合を細かく見るというのも、Ａの観念からＢの観念に移りたくない人の思考癖です。シンプルに自分の目の前にあることをやって、壁じゃなくてチャレンジとしてそこに歩みを進めていけば、それを越える方法は必ず見つかります。

そして、「これが当たり前だ」って自分の中に入れる必要があります。

「なるほどな」って、今聞いて入れたら、今の段階でわかるんです。だけど、この部屋を出て歩いて帰る途中でペーッ！ってすると、この建物を出るまでには「もう違う」という現実を体験する。それを捨てるのか、持ち続けるのか、本人が決めます。

会場　（笑）

今、笑っているということは、日々それをやっているはずです。それも自分で自覚しています。だから一人漫才をずーっとやっているような感じなんですよ。一人で突っ込んで、一人で受けて・・・それを苦労って言いますよね。そういう一人漫才をやめたら、シフトするだけですから。

それができることを、今の段階で信じられるかどうかですよね。

どうですか？

Q2
・・・・・・（長い沈黙）。
なんか、凄く軽やかになっているのは感じます。

前里
軽やかって、周りの方は思ってないですよ（笑）。

会場　（笑）

前里
泣いていますか？
こういう軽やかな人を僕は見たことがないですね。重やか、というか（笑）。

それを無理って言うんです。これが「無理」なんです。

思ってもいないことを「こう言わないといけないかな・・・」って、これが無理なんです。これが苦しみのはじまりなんです。わからないときは「わからない」と言って大丈夫です。「今、楽しいな」と思ったら、「楽しい」と言う。それだけでいいです。

もちろん、今言っていることがわからなければ、「わからない」って言っても大丈夫です。でも「わからない」と言って、この壁の部分に目を背けるよりは、「なるほどね。今軽い感じがするし、いけると思う」って口に出したほうがいいです。

Q2

あぁ、なるほど。

前里

こんな軽やかな人いないですよ。もうさっきまでが冗談にしか聞こえませんからね（笑）。

その無理をやめると、世界が変わりますよ。自分がそれをつくっている、というのはわかりますよね。今自分で悩んでいるフリをしましたよね。

大変なフリをしているんです。上手くいってないフリをしているんです。自分が被害者だと思っているんですよ。被害者ではないです。被害者がいれば加害者もいますよね。今までは仕事をやってきただけなんです。ただ、「別の在り方での仕事のやり方もある」ということをまず知る必要があります。

今の仕事のやり方もありますが、別の方法もあります。どちらが良いですか？というだけの話です。

どっちが良いですか？

Q2
被害者と加害者で、ってことですか？

前里
いえ、被害者の在り方をとるのか、そうじゃない別の軽やかな在り方をとるのか。

Q2
軽やかな在り方をとりたいです。

前里
今、その言葉を出した瞬間に「軽やかである」という状態にシフトしているので、今の状態は不幸ではないです。

Q2
ん～・・・。

前里
わかりますか？　今、自分の胸元が熱いのがわかりますか？

Q2
はい・・・。

前里
それは自分が中心に戻ろうとしているので、摩擦が起こっているんです。普通はこういう状態を良しとするんです。だけど、「ほらやっぱり体調が悪くなってきた」「やっぱり・・・チッ（舌打ち）」ってやるから（笑）。そこの部分に対して神経質になるよりは、中心に戻ることに対して神経質になるほうが楽で

す。

我が強い方というのは直せないんですが、不幸を握り続けることを止められないのであれば、握るものを替えてほしいだけなんです。握り替えたら、別の現実を体験するだけです。どこを掴むか？なんですよ、ただ単純に。

今、ボーッとしていますか？

Q2
ちょっと、ボーッとしています。

前里
なぜだと思いますか？

Q２
ちょっと逃げ出したい気持ち・・・。

前里
そうですね。もう意識的には出入口のほうまで逃げていますからね（笑）。

会場　（笑）

前里
なぜそれがわかるかというと・・・。

これは良い教科書になるんですが、僕みたいに情熱に従って生きている人を目の前にすると、摩擦感というか、加速を感じて逃げたくなるんです。

「よく見るとなんか変な顔しているし、なんか嫌だな」って。無理やり理由をつけてでも離れようとするんです。そういう状態を、今まで無理して選択してきたんです。「自分の価値は満タンだ」という取り決めがないので、「自分の価値は満タンだ」と思っている人との縁をつくりにくくしているんです。

だけど、実際今日ここに来て、これだけの確率の中で話をしているということは、「もう治す方法を知っている」ということです。

ガイドが「どうしてもどうしても、どうしてもこの人に知ってもらわないと、将来やらなければいけない仕事ができなくて困るから」というので、今こうやって対面しているんです。それをまず認識することです。

自分に可能性があるということは、自分でよく知っていると思うんですよね。そのへんの自信は凄くある方だと思います。その自信をここに使えばいいだけです。やることは知っていますよね？　自分で。それをただやってくださいという話です。

泣きたいですか？

Q2
はい・・・（涙を流す）。

前里
今泣いているのは、悪いことではありません。さっきの逃げたい気持ちと、今涙が出ている状態というのは、心の状態が違います。自分でもわかりますよね。

今はいいんです。今はもう最高にいい感じで、百点満点ですね。

その状態の軽やかな感じで、そのまま帰っていただきたいです。「無理をしないで生きていく」って決めると、もっともっと楽になっていきますよ。

一ヶ月も経てば、「なぜあのとき、あれだけたくさんの人の前でそんなことや

っていたのかな」って、そこに気づくはずなので（笑）。「もう、マジでウケるんですけど」という話になるはずなんで（笑）。そのときはもう完全に、その観念を捨てた証拠です。

そうすれば、あとは待っているだけで病気の症状は下がります。

今もっている、○○○さんの凄く自信がある部分・・・それを使って何をやったほうがいいのか。そこへ向かって歩んでいくだけで終わりますからね。

気分いいんじゃないですか？

Q2

はい、いいです。

前里
今気分がよくなったのは誰のおかげかって、自分自身のおかげなんですよ。

これが、僕が「宗教ではない」と言っている理由です。僕は神様じゃないです。神様が気分をよくしてくれたわけじゃないです。自分自身が、自分自身の力で気分をよくする世界に移ることを許したから、百点満点ということを認めはじめたから、今気分がよくなっているだけです。

これが仕組みです。大丈夫ですか？

Q２
はい。ありがとうございました。

前里
では次の方どうぞ。

【質問３】　特殊な才能は、どこからやってきますか？

Ｑ３
よろしくお願いします。

単純な質問なんですが、才能ってありますよね。人によって運動神経がよかったり、歌が上手だったりとか。

前里
はい。

Ｑ３
それは、やっぱり過去生でずっとやってきたからそうなのか、それとも今回の自分の人生の目標にあわせてそうなっているのか・・・。前から疑問に思って

いました。

それを教えてほしいです。

前里

両方あります。

例えば本を書いて、いろんな賞をもらう方がいますよね。それは、前世でも書いていたりするんです。「一回でそういう仕事ができない」という方は、二回ぐらいに分けて「文章を書く」という人生をやっています。「今回で完成させる」というかたちで生まれてくる方は、過去生に原因があるというか・・・それをもってくる。

ですが、基本的には過去生があっても、生まれてくるときに「自分がどういう才能をもつ必要があるのか」というのは本人が決めます。すべて自分です。亡くなって向こうの世界に行っても、こっちにいても、なにも変わらないです。

だからこそ、マイナス思考であの世に行くと、ただ目の前に暗い現実が・・・ここは3次元なのでスピードが遅いですが、向こうではパッパッパッてくるので、そうやって目の前に暗い現実がくるんですね。

自分の才能は自分で決めてきます。

その才能を一つだけじゃなくて、もっともっと価値を上げて二つ以上やりたいと思ったら、そう思えるようになってきて、そこにシフトするだけです。

僕はよく「仕事はあれかこれかではなくて、あれもこれもやってください」って言います。

「一つしかできない」というのも観念の仕業なんです。一つだけをやっていて幸せだと思う方はそれでもいいと思います。でも、あれもこれもできる中で「あれもやりたいんだけど、でも二つは無理だよな」と思う方は、それは違います。あれもこれもやろうと思ったら、そういう現実はつくれます。

Q３
わかりました。ありがとうございます。

前里
では次の方どうぞ。

【質問４】　願い事は強く願うべきですか？　手放すべきですか？

Ｑ４
よろしくお願いします。

私には十四歳の息子がいるんですが、たまたま、あるオーディションに受かりました。受かったというか、審査で五四四人いる中の二十人に選ばれて。五四四人の中で選ばれた三～四人だけが、子ども人気番組の声優になれるというものです。

残っている二十人の子どものお父さんやお母さんは、誰もが「自分の子どもに受かってほしい」と思っていると思います。私もそう思うのですが、あまり執着しちゃいけないのかなとも思います。ただ、うちは母子家庭なので「息子がちょっと稼いでくれて、お金を運んでくれるかもしれない」という思いもあって。

前里
なるほど。

Q４
その執着心と期待と、何ていうのかな・・・うまく説明できないですけど。

前里
わかりますよ。

Q４
そこのジレンマで悩んでいます。「落ちたとしても、いい経験ができるからいいよね」って息子とは話しているんですが、うちの息子もスピリチュアルが好きで、「引き寄せの法則」とかの本を読んでいるんですね。「自分の願い事を強

く思う」というのと、もう一つ「手放す」という・・・そういうメソッドもあって、二つの情報を息子が読んでいて、息子も悩んでいるんですね。

前里
なるほど。

Q４
私自身も、自分の願い事を強く思うのは大事だと思っているんですが、あまり執着し過ぎるのもよくないかなと思っていて。

前里
はいはい、ありますね。

Q4
そのバランスをどういうふうにしていいかわからない部分があるので、それを聞きたいです。

前里
なるほど。いい質問ですね。

簡単ですよ。願い事に集中するのは一時間ぐらいで十分です。一時間、「そういうふうになってほしいな」ってイメージできれば、あとは手放して問題ないです。

例えば、その二十名の子どものご両親方は、「絶対に自分の子どもが選ばれるんだ」って、強い思いをもっていますよね。でも、今は気づかないかもしれないですが、後で「あのとき受からないでよかったな」とか、「受かってよかったな」ってわかりますよ。

では、なぜ受からないのに、受かると思ってそこにいるのか？

そこにいる人たちはみんな「選ばれる三人を押し上げるために集まったメンバー」なんです。要はソウルメイトなんですね。こういうかたちで、ソウルメイトとの交流は常にとっています。

パッて出会って、ハンカチを落として手が触れ合って「あっ」みたいな・・・（笑）。それだけがソウルメイトだ、というのは大きな勘違いです。

会場　（笑）

前里

そこにいる人たちは全員ソウルメイトです。生まれてくる前に相談している仲間でしかないんですね。

だから、お願い事に集中する時間は、長くても一時間ぐらいですね。あとはもう手放して「どうにかなる、なるようになる」と思っていると、逆にそこに行きやすくなります。

なぜかというと、ギュッとなっているものをずっと持っていると・・・おっしゃる通り、この物理次元の空間がかたくなりすぎていけないんですね。思って、パッと手放したら、そこに行きやすくなる。でも行く必要がないときは、必ず落ちます。受かる必要がないときは必ず落ちるようになっています。

でも、その落ちる経験をまた別で使うようになっていますから、どちらに転んでも価値は満タンで、百点満点なんです。落ちたら「素晴らしい」って言えばいいし、受かったら「素晴らしい」って言えばいいし（笑）。

ただ、それでお金をもってくるかどうかはまた別の問題ですけどね。

会場　（笑）

前里

僕も幼い頃に母親が亡くなっていて、本当に貧乏なお家でした。別に悲しい話じゃないですが、晩ご飯にチョコレートが出たことがあって・・・「チョコレートかよ」って言ってね（笑）。

「もしかしたら、俺は世界一凄い人になるかもしれない」って思いました。

「だってチョコレートだよ？」って笑いながら言ったのを今でも憶えています。でもそうやって笑っていくと、次もどんどん笑える。だから、「母子家庭で・・・」というのがお母さんの中であったとしても、それを子どもに言う必要はないです。そういう発言は、「あなたは可哀想だ」って言っているのと一緒なんです。

「私はそれがいいと思って、そういう在り方をとっているけど、あなたは別だ」「そういう環境を望んできている以上は、自分の足で立つように」「早く自立心を掴んでもらう」と、僕は亡くなった母親に言われました。だから僕は、めちゃくちゃ早い時期から自立心をもっていました。もう自分の足で立たないと、どうしようもない。だって「明日の晩ご飯もチョコレートかもしれない」とい

う気持ちがありますからね。

そのぐらいの気持ちで僕はラッキーだったと思っています。

それを母親として教えてあげれば、子どもはどんどん強くなります。もともと強い子ですよね。いろいろと幅広く活動しますし、将来はアメリカに移住すると思います。アメリカで一緒に暮らすことになると思いますよ。今のうちに少しでも英語を勉強した方がいいですね。

Q４

実はこの前、息子に「英語を勉強したらいいんじゃない？」って何気なしに言われたんです。外人さんとしゃべれるし、友達になれるしって。そういえば私も息子に、「英語でも習ったら？」って言っていました（笑）。

前里
そうやって心は感じるんですよね。

だから、周りの人の話をちゃんと聞いて目の前を大事にしていくと、自分の中心に移りやすくなります。お母さんの言葉を何気なしに聞いて、「じゃあ、やってみようかな」ってシンプルに目の前の情報を信じて受け入れて動くと、早く「幸せ」という状態に行けます。

お子さんは、もともとアメリカに住んでいたというのもあります。「アメリカで活躍したい」というのが本人の中でもあります。今の仕事を必ずアメリカでやるかというと、それはちょっと言えないですけどね。だけど、そういうかたちで一緒にアメリカに行くと思います。

もし、刺激を与えるという意味で旅行に行く機会があれば、アメリカの端でもいいので、安く行ける場所を探して行ってみてください。船に乗って「もうあと何千メートル行けばアメリカだ」って言って（笑）。半分アメリカを体験したぐらいの感じで船を戻す・・・「でも半分は行ったからね」って（笑）。

会場　（笑）

前里
そういう状態を教えてあげると・・・まあ、教えなくても元々自立心が強い子です。そういう予定みたいなんで、心配しなくてもいいと思います。

ご自身の心配をした方がいいですね（笑）。

会場　（笑）

前里
心配しすぎですよ。

Q４
よく言われます。

前里
それは必要ないですよ。これは息子さんのガイドからの話です。否定じゃないですよ？　聞いたことを、ただ言っているだけなので。

大丈夫ですか？　もう。

Q４
大丈夫です。

前里
では、手放してくださいね。

Q４
はい。ありがとうございました。

前里
では次の方どうぞ。

【質問５】　霊的な仕事は、選ばれた人だけができるのですか？

Ｑ５
よろしくお願いします。

スピリチュアルな仕事をしている人って、プロフィールとかを見ると「小さいときから能力があった」ってよく書かれていたりしますよね。

前里
はい。

Ｑ５
その能力を使って仕事をしている人、多いですよね。

前里
はい。

Q5
僕もあるときからスピリチュアルに触れて、ちょっと行ってみたいと思ったんですよ。

前里
行ってみたいというのは、どちらに？

Q5
スピリチュアルの世界に。

前里
あぁ、なるほど（笑）。

Q5
でも昔から、小さい頃になんか見えたとか感じたとか、一切なかったんですよ。霊能者が「怖くてここには行けない」という場所にもズカズカ入っていって・・・。それで、やりはじめたんですが、さっぱりモノにならないんですよね。

前里
なるほど。

Q5
わからないし、教えてもらったことすらマスターできない・・・。それは何が

邪魔をしているのかなと思いまして。

前里
なるほど。

自分の中にあるイメージをちょっと探ってみるのも一つの手だと思いますが・・・。「霊能者になりたい」ってことですか？

Q5
いえ、霊能者になりたいわけじゃなくて、必要なことがわかるようになりたい。

前里
でもそれは、霊能者というかもしれませんよね。

先程の話の中にあるものとして、少し怒りをもっているんですよね。「運命的に決まった人だけがやるものじゃないだろう」という気持ちがあるはずなんですね。僕も全く同じです。同感なんです。

だから僕はワークショップで透視の仕方を教えているんです。誰でも当たり前にできるんですよ（笑）。「霊能者の特権の時代は絶対に終わらそう」というのが僕の本心です。学べば誰でもできるんですが、そこに怒りを向けた今の状態だと、霊能者否定になります。

そこに行く一歩手前・・・「たま～に何か感じるかな・・・でも違うだろう」って強い思いで・・・在り方が強い方なので、消すのも早いんです。掴もうと思ったらそれも早いです。

でも、それに対して少し否定があります。そこに踏み込む前に、自分が否定しているわけですから。

Q5
はい。

前里
否定というか、怒りがあります。

「それは違うだろ」という部分を少し外してみてください。元々選ばれた人だけが霊的な仕事をやるかというと、そういうことは一切ないです。一ミリも、一センチもないです。だから、望めばそこに行くだけです。

例えば、この後僕と三時間一緒に過ごしてもらって、「じゃあ、やりますか」って契約書を書いて、「霊能者」という名刺をつくって、明日の朝九時から絶対に動くという約束があったら、僕が今すぐ霊能者にさせることはできます。

でもそれを望まないと、そういう現実を迎えることができないんですね。否定すると、面倒臭いんです。実現しにくい自分を体験しないといけないです。

「小さいときから霊能力があって」とか、そう言っている人は、アイデンティティーの部分で「自分は凄いでしょ」って言わないと心が折れる・・・そういう恐怖心をもっている可能性もありますよね。だから、そうやって否定するというよりも、そういう人に関してはただ認めてあげる。「自分は別の在り方で」ってシフトすると、スッといきますよ。また、そう遠くはないですからね。

Q5
わかりました。ありがとうございました。

前里
はい。では次の方どうぞ。

【質問６】 もっていることを意識できる観念と、できないと観念があると思うのですが？

Ｑ６
よろしくお願いします。

よく「観念が現実になる」って言いますよね。自分がもっている観念って、「意識できる観念」と、「意識していないけどもっている観念」というのがありますよね。

前里
はい。

Q6
私は中学生ぐらいのときに結構重い病気をしました。でもそれは年々、少しずつ良くなってきたので、そのままずっとよくなると思っていました。

そうやってずっと思っていたはずなのに、段々停滞してきちゃって・・・。それから、体力が落ちていくという問題も起こって・・・。自分の体力が落ちるなんて全然思ってなかったのに、体力が落ちていくんですよ。

前里
はい。

Q6
後で気づいたのは、やっぱりその・・・無理をしていたってことなんですが、でも・・・。

前里
あ、眠たいですか？（笑）

Ｑ６
いや、眠たいんじゃなくて、最近ちょっと話が途中でまとまらなくなることがあって・・・それで、なんだっけな・・・。

前里
いいですよ。その説明を今しますよ。

Ｑ６
はい。

前里

例えば、自分が「ある在り方」をとっているとします。

このときは「Aという観念」の中に住んでいるとして、次に移る世界は「Cという観念」だとします。Aにいるときは、家族や学校の先生、いろんな方が心配していた。自分自身も心配で「治りたい」と思った。それは人間ですから、当たり前のことですよね。改善していってBにシフトした。Aよりいい状態に移った。

そして次に出てくるのが・・・「自分の価値は満タンだ」と置いておかないと、これは無意識にですが、「体調が崩れていたときのほうが、目をかけてもらっていたような気がする」というのが出てくるんです。それでもう一回、少し似たような在り方に戻る方がいます。

セミナー中でもこういうことが起こります。

「悩んでいるほうが、僕に目をかけてもらえる」・・・そういう思い込みをも

っている方がいるんですよね。だから、チラッと目が合ったら悲しそうな顔をしたり・・・。

会場　（笑）

前里

僕はパッと無視しますけどね。なぜ無視するのかというと、僕は宗教家ではないからです。「あなたは弱い人ではありません」というメッセージが、そこに入っています。

そういうことを楽しんでやります（笑）。今、そういう状態かもしれないですね。

例えば、「別の在り方をとることで、病気は治った。でもこれを完全に手放すことが、なんとなく親から育ててもらったあのときを捨てるような気がする」

と無意識に感じる方もいるんです。でも、これは勘違いです。親のために、「凄い短気な在り方を捨てられない」という方もいます。原因は「親のために」ですよ？

親とぶつかって苦しんいでるいのに、「あれを捨ててしまうと、親に育ててもらった恩を返せないような感じがする」というので、「そういう在り方を捨てられない」という方がいました。

この話を少しヒントにしてみてください。

もちろん、観念にはおっしゃる通り、頭でわかっているレベルと、そうじゃないレベルのものがあります。ですが、先程「壁じゃなくてチャレンジだ」って話をしましたよね。あの話はここの部分でも使えるんです。

自分が「なるほど、今こういう部分を知ったんだな」って、この話を聞いているだけで、体の状態は良くなっていきます。なぜかというと、これは創造の仕組みの話で、中心に戻る方法を直接注いでいるからです。

つまり今、「自分の良くない状態」も、それも「自分の心が決めているんだ」という話を聞いていますよね。これを持ち帰って、このプラスの部分に目を当てていくと、その部分が広がっていきます。この話を自分の中に、どれだけ取り入れることができるのか？　そういう在り方も、とてもいい在り方だと思います。

意味がわかりますか？

Q6
ちょっとよくわからなかったです。

前里
どのへんからですか？

Q6
うーん・・・。あっ、でも今、わからなくてもいいかなって思いました。

前里
そうです、そうです。天才ですね。今それを言おうとしたんです。

今、天才発言をしたんです。何が天才かというと、この話は頭でわからなくてもいいんです。心が聞いているので。「今はわからなくてもいいかな」というのは、完全に治る世界にシフトすることを許した人の発言です。

それが「もういいや」という気持ちで言ったとしても、どちらにしても、それが自分の中に入ること許したから、ああいう発言が出るんです。それが、集中して手放した瞬間です。

さっきは、自分が辛い状態を頭の中で回想しながら話をしましたよね。そこを一回手放しているので、今はものすごく良い状態です。

わかりますか？

Q6
・・・。

前里
そこは理解する必要がありますよ（笑）。

会場　（笑）

前里
そこは大事なので（笑）。

でも、「必ず理解しないとダメ」ではなくて、なんとなく「なるほどな」ってなるだけで、人の意識は変わりますからね。そういう考えが自分の中に入ってきている、ということをただ許してください。

「じゃあ、これからどんどん良い方向に行くんだな」って信じることが、今一番できることだと思います。

Q6
わかりました。

あと、体力が落ちてきているのは、体が「無理しているんだよ」って教えてくれているんだと思います。

「こうでなければならない」とか、そういう思い込みを捨てて心は凄く楽になったんですが、体のほうは逆に力が抜けちゃって、どんどん動かなくなっているので、「そのうちよくなるんだ」って信じ切れていない部分があります。

前里
良いポイントですね。

まず、「力が抜けて逆に体が動かなくなった」という点に関して、これは凄く矛盾があります。

というのは、「力を抜く」というのが中心に戻る一つの行動なんですよ。まず、力を抜かないとダメなんです。

「手放す」「リリースする」って僕がよくラジオとかで言いますけど。人は変わるときに「はぁ・・・」って言うんです。それが手放した瞬間の行動です。「力を抜いている自分はダメなんだ」「自分を律しないといけない」と、自分に対して厳しい部分があるんですよね。

力が抜けていることをよしとする。

そして、頭で半分理解して、それから心の中に染み込んでいく状態をよしとす

る。いい状態に入ったのに、そこにまた自分で手を入れて、壊そうとしているようなところがあります。いい状態に入った・・それをそのままよしとして、終わる。「あれもこれも、ずーっとやらないといけない」という思いを一旦置いておく。

それも一つの手です。

Q6

今ちょっと本当に、段々ダメになっていくような気持ちがあるんですけども（笑）。「それもそのままでいいの？」って思っちゃったんですけど。

前里

ダメになっていくわけではないです。どのへんがダメになっているんですか？ヘアスタイルが凄く乱れているとか、それなら「あなたは確かにダメになっていますね」って言いますけど。

会場　（笑）

前里
そういうところは見受けられないですよね。だから、自分でそうやってつくるのを一旦止める。

「あれもこれも、ずーっとやらないといけないんじゃないか」って急いでいる状態を、一旦止める。落ち着くってことですね。そうすればもう少し楽になると思います。

Q6
「自分がダメになっている」と思ってしまうのは、世間的な価値観を気にして、例えば「働くことができない」とか、「でも頑張れば働けるんじゃないか」とか、そういう葛藤が・・・。

前里
はい。わかりますよ。

Q6
それで苦しくなっているのかな・・・。

前里
苦しい話が好きですね。本当に働きたいと思っている人は、何かしら動いていろいろチャレンジして、例えば二十社面接を受けてダメだったとしても、そこで多少落ち込んだとしても、「次、いいところ探そう」ってなる。

これが働きたい人の思いです。

今、それをやりたくないのであれば、そのままでもいいということです。「動かないでいることはダメだ」「動き続けないとダメだ」という、この否定を一

旦止める。それが、今一番必要なことかもしれません。一旦そこで少し落ち着かせる、ということが必要なんだと思います。

Q6

ようやく、ちょっとわかりました。ありがとうございました。

前里

はい。では次の方どうぞ。

【質問7】 物事がうまくいっているのに、「貧乏になる」という声が心の奥から聞こえてきます。

Q7
はじめまして。素晴らしい講演会をありがとうございます。

前里
ありがとうございます。

Q7
私もスピリチュアルカウンセラーをやっています。五年前からはじめまして、その前は広告代理店でアートディレクターのような仕事を二十年程やっておりました。

前里
はい。

Q7
それで、この五年間とてもうまくいっていて、幸運なかたちでスピリチュアルの仕事ができたなと思っています。

お客様にも感謝しているところですが、五年経って、何かぐるっと円を一周してきたような感覚があります。よくよく見ると、願いが叶うスピードも凄く早まっています。新しいセカンドハウスを見つけて、それが理想的な場所だったり・・・「動物を飼いたい」と思っていたら、動物ＯＫのリゾートマンションだったり。

「なんでこんなプレゼントがくるんだろう?」って思っているんですが、そこで自分の感覚をよく観察してみると、一抹の恐怖心があります。

前里
はい。

Q7
自分の気持ちをよく見てみたら、おかしいことに「貧乏になる」という声が、心の奥から聞こえてきました。

今、売り上げが落ちているかというと、決してそんなことはなくて、恵まれています。でもその恐怖心というのが、背中に張り付いた死神のような感じで、「貧乏になる、貧乏になる」というのが心の中で湧いてきます。

前里
なるほど。

Q7

「この声は何なんだろう?」というので、人の助けを借りようと思っていたら、今日たまたまここに来ることになりました（笑）。

前里

なるほど、簡単ですね。

自分の価値観を「満タンだ」というところに置いてない。ただそれだけです。そうすると、自分自身の中から、潜在意識の中から声が上がってくるように聞こえます。だから、そういう言葉を聞いたり、目にしたり、情報としてパッて上がってきたり・・・。

そういった恐怖心が、みなさんあるんですよね。でも本当は、今まで五年もやってきているので、毎年毎年どんどん上手になるし、それは当たり前なんですよ。それが「幸せすぎて怖い」というのもあるかもしれないですね。

Q7
幸せと恐怖心を結び付ける感覚ですか？

前里
はい。一回上がると「自分がもしダメになったときに、周りになんて言われるのかな？」とか、そういう思いで悩む経営者もたくさんいます。

Q7
なるほど。

前里
気持ちがわからないわけじゃないですが、そういうことは起きません。「そういうものはない」ってやるだけで、そういうことを体験することはありません。

そういう不安があったとしても、それを消し去ろうとするのではなくて、「これも調味料の一つなんだ」と思えば、「七味がピリっと効いていて美味しいな」という感じになります。「それも一つ、自分の人生に色をつけるために必要だったかもしれないな」と考える。

でも、「あなたはあっちに行っておいて」ってやると、そういう体験はしません。

Q7

広告代理店時代がかなり激務だったので、「お金を得るためには激務でないといけない」という感覚があるかもしれません。

あと、今リゾートマンションとかを見つけて、激務とは全く別の幸せな世界に行くので、激務とお金がくっついているにも関わらず、激務じゃないところに行こうとしている自分が怖いのかもしれないです。

前里
そうだと思いますね。目に力が入りすぎですよね。

Q7
はい（笑）。

前里
疲れませんか？

Q7
目は・・・視力は弱いです。

前里
頑張りすぎるからですよ。

Q7
はい。

前里
相談者は、ガチガチな方がいっぱい来るんじゃないですか。

Q7
そういう方が多いですね。

前里
そこで、「あなたは真面目すぎるのよ。力を抜きなさい。だってガイド様が見ているから大丈夫よ」って声かけますよね？

Q7
そうですね。それで言った後に、「自分に言ってら」って思います（笑）。

前里
それが答えです。必要なのは、それだけです。

頑張りすぎているんですよ。頭も重いし、脳の・・・延髄の周りのほうもちょっと凝っています。そこを少し下げる必要があります。頑張る必要はないです。力を抜くほうが一番いいんです。幸せは上流にあるのではなくて下流にあるんです。力を抜いたもん勝ちなんです。

Q7
はい。

前里
穏やかで水もたくさんある。

無理して上に向かって泳ぐ方もいっぱいいますが、力を抜いたほうがいいんですよ。「楽しむ」というのがないと、力を抜けませんから。今、「凄く楽しみで」とかじゃなくて、頑張って来ているんですよね。真面目に。

Q7
そうなんです。

前里
いいカウンセラーだと思いますよ、本当に。紹介したいぐらいです。

Q7
ありがとうございます（笑）。

前里
今、笑ったこの目の状態が一番いいんです。今の状態は「真剣にならないといけない」という思いで、先程僕に質問するときの顔と全然違います。
自分でわかりますよね。

Q7
わかります。リゾートマンションに住んで、海を見ながら犬の散歩をして、エ

ステと温泉三昧をやろうと思います。

前里

それも頑張って、楽な幸せを掴もうとしているような状態なんですよ（笑）。ただそこに行って「犬がいて温泉があれば、ちょうどええ」ぐらいの気持ちで、集中してパッと手放す、というのも必要です。

今の状態が一番いいです。さっきは少し力が入りすぎて、ここまで矢が飛んできているような状態でしたからね。

会場　（笑）

Q７

目力は強いと思います（笑）。

前里
力が入りすぎです。
そうすると脳が疲れますよ。脳から来て、関節も疲れるはずですから。それはやめたほうがいいです。もったいないですよ。

Q7
はい。どうもありがとうございました。

前里
はい。では次の方どうぞ。

【質問８】　四年前に他界した父が、どう思っているのか知りたいです。

Ｑ８
はじめまして。

四年前に突然父が他界したんですが、生前は同居していました。父と二人暮しでした。私は結構、「好きなことだけやって生きていきたい」という考えた方をもっていました。でも父は、「そんなふうには生きられない」という観念の持ち主で、ずっと摩擦と葛藤がありました。

前里
はい。

Q8
そういう中で、突然父が倒れて、そのままコミュニケーションがとれない状態で他界してしまったんです。

前里
なるほど。

Q8
そのことで、ちょっと私の中でも罪悪感というか、トラウマみたいになって・・・それが二年ぐらい続きました。今もまだその気持ちは少しあるんですけど。

そこで、「他界した人たちはどういうふうに思っているのか」とか、「どういうふうに自分で解釈したらいいのか」というのを教えていただきたいです。

前里

はい。一番簡単ですね。死ぬときは、秒単位まで本人が決めてきています。状態もすべて。

だから、今のお父さんの状態というのは、いい状態・・・自分が望む在り方に移っているだけです。それを「心残りがあるんじゃないか」というふうにしているんです。

本当の目的はそこではなくて、自分の人生を上手くまわらせないように、目の前を見ないようにするための理由として、父親をもってきているというのはわかりますか？

Q8

・・・。

前里

それが原因なんです。心配してないとは言いませんが、でも心配はしていないです。なんとなく「向こうに行ったら大丈夫かな」という思いがありますよね。

自分でもそういうことを言っていますよね。なのに、心配しているようなフリをしているんです。本当の目的というのは、自分の人生を創造的にパワフルに生きていくことです。

それを見ないようにするために、わざわざお父さんを引っ張ってきている。それを止めるだけで、そのぶんの意識が空くので、「今の現実を変えていこう」という方向へ行きます。執着が強い方ですから、行こうと思ったらパッ！とそこに行きます。「ここだ、ここに行こう」ってポイントを見つけるのも早いので、上手にできますよ。それだけです。

Q８

わかりました（笑）。ありがとうございました。

前里
では次の方どうぞ。

【質問９】　「宇宙人に脳の工事をされたい」と思えば、それは可能になりますか？

Ｑ９
よろしくお願いします。

前里
どちらからしゃべっているんですか？

Ｑ９
こっちです。

前里
あっ、はい。宇宙人がしゃべってきたのかと思った（笑）。

会場　（笑）

Q９
あの、実は宇宙人の話をしようと思っていたんですけど（笑）。

前里
なるほど（笑）

Q９
「宇宙人から脳を工事された」というお話を聞いて、「いいなぁ」と思ったん

ですよね。

前里
はい。

Q9
そういうご縁というのは、「自分で決めてきたから」というのもあると思うんですが、自分で「そうなりたい」と思ったら、そういうことは可能になるんですか？

前里
もちろん、そうです。どうしても疑似体験したければ、脳外科に行って脳を開けてもらう、というのも必要かもしれないですね。

会場　（笑）

前里
でも、それは心地良いものではなかったですよ。僕は少しハードというか・・・ちょっと大変な思いをしたました。大変というか、びっくりはしました。だけど、本当はそういうふうにする必要はなかったんです。

その後で「どうやったら透視やチャネリングができるのか」というのを聞いて、やわらかいかたちで伝えています。いちいち頭を開けるとかは、僕はセミナー中はやっていません。

言葉で聞いて知識として入れて、透視をします。今日、僕の話が終わった後で「チャネリングして情報を届ける」というカウンセラーの方々がいますけど、その方たちは普通の一般の方です。

ワークショップで学んで、知識として入れて、実際にやっている。

はじめは自分でもびっくりして「えぇ、こんなことがわかるんだ?」「言ったことが当たった!」って喜んで・・・。そういうスムーズなやり方もあるんです。スムーズな方向を選べば、スムーズにそこにシフトするだけです。僕みたいにいちいちガーン!ってやって、びっくりして、恐怖体験みたいなことをやらなくても、そこに行こうと思えば簡単に行けます。

「いいな〜、なんか頭いじられて」って思う必要はないですよ。

Q9
わかりました。ありがとうございました。

前里
はい。では次の方どうぞ。

【質問10】　インナーチャイルドを癒す方法を教えてください。

Q10
こんにちは。

前里
こんにちは。

Q10
「インナーチャイルド」という言葉をよく聞きます。これは先程のお話にあった思考とかで、「癒された」って思えば、癒されちゃうものなのでしょうか？

前里
具体的に「インナーチャイルド」というのは、どういうことだと定義づけされていますか？

Q10
そうですね。やっぱり幼い頃に私自身もいろいろと、「親の愛情が欲しかった」とか、そういうのは自分でもあると思っています。そこをクリアしないと、先程お話されていたような、思考を現実化するときに、何かストップがかかるとか、そういうことはありますか？

前里
僕もその言葉はよく聞きます。

でも僕はセミナー中に「インナーチャイルドが」とか言いません。そのときに体験したものは、それでよしとする。で、そのとき「寂しいな」と思ったとし

ても、親も兄弟も、自分で選んでその家庭に生まれるんですよね。

だから、望まない体験があったとしても、それは二十歳までです。それはもう親の管理下にいたらしょうがない。

でも二十歳を過ぎて大人になってからは、自分の人生は自分で百パーセントつくっているんですよ。子どものときは親の管理下にいるので、やりたくてもできないことがあった。でも、親もそのときは「その方法しかない」と思って接してくれていたかもしれない。そういう思考をするだけで、「寂しかった」とか、そういうものはなくなります。

そこに、あまりにも重きを置きすぎているはずです。「これがあるから私は幸せになれません」って言っているようなものです。「そのときの環境は、それでよかったんだ」とする。

例えば、晩ご飯で二百円のチョコレートが出てきたことないですよね？

会場　（笑）

前里
僕もそれを「インナーチャイルド」という言い方をすれば、そうなるはずなんです。でもそれを言わないで、笑い話として話をするので、ネガティブな影響を及ぼさないだけです。そういうふうにすると、目の前に起る出来事とか、自分が体験する現実というのは、もともとはじめから意味があるものはないんです。

その後で「これはプラス、これはマイナス」と意味づけするのは自分です。

プラスにしたら次のプラスに出会うようになっています。マイナスにしたら、それは何かに繋がっていろんなマイナスが見えるようになる。いろんな体験はあると思いますが、それを否定しない。「あのときはそれが必要だったんだ」ってするだけで、それはもう終わりになります。

たったこれだけで終わりなんですが、「そんなはずはない」ってやると、先程みたいに「オエ～！」って出さないといけない。

シンプルすぎて難しいんですよ。簡単すぎるんです。それで終わりなんです。それを許さない自分がいるだけなので、「そういうものはない」というふうにする。

具体的にもっと何かをやらないと納得できないのであれば、他の方法があります。例えば、「親との関係で、この時期悲しい思いをしていたんじゃないか」という自分をイメージしてください。そこに行って今の自分が小さいときの自分を抱きしめてあげる。それだけで、その空間自体がゆっくり溶けていきます。そういうイメージをするだけで、それはもう完全に記憶からなくなっていきます。

思考の中で「それで終わった」って許すことができなければ、今の方法を使ってみてくださいね。

Q10
わかりました。ありがとうございました。

前里
では次の方どうぞ。

【質問11】　三年前ぐらいから、脳をもまれているような感覚があるのですが・・・。

Q11
よろしくお願いします。

皆さんとはちょっと質問の内容が違うんですが、三年前ぐらいから、最初は脳の中とか表面がビリビリしているような感じがありました。それから「脳をもまれているような感じ」がはじまりました。

今年に入ってからは、かなりウネウネするというか、ビリビリするというか、「縛りがある」って言い方をするんですけど。

前里
はい。

Q11
最初は何なのか、一年ぐらい全然わからなくて、もういろんなものを視たりしていました。

前里
なるほど。

Q11
ＭＲＩを見ても何もなかったんですが、友達からたまたま「前里さんという方が、脳を改造された」みたいな話を聞いて、「私と似ているのかな」と思って、今日ここに来ました。全然違うようですが（笑）。

今日来るとやっぱり前里さんのエネルギーが強いからか、私も凄くこう・・・ウネウネが強いんですけど。

前里
ご迷惑をおかけしているってことですか？（笑）

会場　（笑）

前里
苦情ではないですか？　今のは（笑）。

Q11
違います（笑）。

前にも一度、すごく波動の強い人に会ったときに、ガー！ってくる感じとかがありました。「これは一体なんだろう？」ってずっと思っているんです。

前里
スピリチュアルな仕事はされてないんですか？

Q11
いえ、特にはしてないです。

前里
やりたいという気持ちもないですか？

Q11
ないことはないです。でも十年ぐらい前からこの世界を知って、「あっ、そうだったんだ」ということがすごく多くて・・・。

前里
そういう仕事をされてみるというのが一番いいんじゃないですかね。そういう情報をお持ちかわからないですが、ご自身が過去生の中で化学者をやっていた、

という話は聞いたことありますか？

Q 11
いや、哲学者だったという話は聞いたことありますけど（笑）。

前里
化学をやっていたことがあって、薬品の配合とかをやっていたので、物事に対する見方が細かいんですよね。化学者の見方をしているんです。

そして今、一つ入れておいたほうがいい観念があります。それは、「波動が強い人や弱い人というのはいなくて、みんな同じである」というものです。「自分は波動の強い人を感じる。そして、自分自身も波動が高い・・・」ってやると、波動が低い人もいるかのように心が思ってしまうんです。

そうすると、「あなたは波動が高いから・・・」って祭り上げられないと、ス

ピリチュアルな活動がスタートできないという、隠れた観念が入っているんです。そういう観念をもつ必要はありません。

シンプルに「ちょっとやってみようかな・・・」って普通にやってみたらわかると思いますよ、自分が上手にやるということを。

あとは文章を書くのも好きです。「この部分とこの部分の微妙な行加減で、人生が変わる」という、この観念について見る目を元々もっています。

「なぜこの人が幸せで、なぜこの人が不幸なのか」というのを見て、そこにアドバイスを与える仕事はすごく向いていると思います。周りのＯＫではなくて、自分でＯＫを出してやっていこうとすると、すごく楽しいと思いますよ。今でも楽しく生活していると思いますけどね。

Ｑ11

わかりました。ありがとうございました。

前里
はい。

司会
すみません。そろそろお時間なので、最後の一人というかたちで終わらせていただきたいと思います。質問がある方は挙手をお願いします。

はい。ではあちらの方、どうぞ。

【質問12】　気づいただけで、観念を手放すことはできますか？

Q
12
よろしくお願いします。

最後の確認なんですが、「観念を手放す」というのは、「自分はこう思っているんだな」って気づいただけ手放せますか？

前里
そうです、そうです。

「これがあるんだ」って気づくというのは、そこから離れて見ているから、気づけるんです。だから観念に気づいたということは、変化プロセスの終わりなんです。気づいたときが、もう手放すときなんです。「手放しているのに、ま

た掴む」という行為さえしなければ、手放して終わり。だから、見つけるまでが勝負なんです。

「前里さんのカウンセリング受けた後から、自分の中にいろんな観念があることに気づきました」ってよく言われるんですが、それは本当にラッキーなことでしかない。「終わらせているプロセスを通っている」ということです。「見つける」ってことはラッキーなんです。見つけるまでが大変ですね。

僕の本当の仕事は、「あなたはこういう観念をもっていますよ」って見せることです。自分でも本当は見つけることができるんですが、それが難しいんですよね。

一番いいのは、瞑想したり、ゆっくりと心を落ち着かせて散歩をしたり、そういう静かな状態の時間をつくるということです。そういうときに、「もしかしたら、こういうものが邪魔になっているんじゃないかな」ってパッと浮かびます。

浮かぶものには全部意味があります。

マイナスのものも、プラスのものも、全部自分の中でチェックしていくと、自分の観念を変更できます。変更できるというか、もう終わりにする作業になります。そういうかたちで見つけていくと、どんどん変わります。

気がついたら別の自分になっています。

Q12

例えば「A」にいたとしたら、「B」のイメージができなくても、その観念を捨てるだけで、自然に行くべき方向に行くってことですか？

前里

もちろん、そうです。本当は何のイメージもしなくても大丈夫なんですよ。「絶対にああなる、絶対にああなるんだ」って、毎日やらなくても大丈夫です。

Q 12
イメージがなかなかできなくて・・・。

前里
「できない」ってことではないです。「イメージができない」という人は、もともともっている百パーセントの創造力を使って、「できない」という自分をつくっているだけです。本当にイメージできない方というのは、今この瞬間に消えているはずです。存在できないんですよ。イメージから離れることは誰にもできません。

その認識をまず自分の中に入れてください。

イメージするのが難しければ、紙にちょっとしたものを書いて、「これはこういうもんだ」みたいなことにして、それをギリギリ自分ができる範囲でイメージする。そうすれば上手くまわります。

例えば僕の奥さんとかも、「イメージなんか、何も浮かばない」って言いますが、「今日、何食べたい？」って聞いたら、「うーんとね、冷やし中華」ってすぐ言ったりしますからね。

会場　（笑）

前里
「イメージしているでしょ？」という話です。「全然、何も浮かばない」とか言っている割には、食べ物系は得意なんですよ。

会場　（笑）

前里
「食べ物、何が食べたい？」って聞かれて、「今は気分的にこれかな・・・」というのありますよね？

Q12
はい。

前里
ということは、自分が「できる」ということを、まずは認めてあげるのが最初のステップです。そうすると、どんどんクリアになっていきます。

Q12
わかりました。ありがとうございます。

前里

はい。少し時間が過ぎましたが、約二時間ですかね。

質問することができなかった方もいると思いますが、こういうやり取りを、『チャネリング会』としてやっています。十人ぐらいで円になって、「次の方どうぞ、次の方どうぞ」ってどんどん進めていきます。

聞いていたらわかると思いますが、先程も話したように、別の方の観念というのは・・・例えば、「A」からすると「B」はあり得ない。BはAを見て、「こんなことでいちいち悩んでいるの？」って映ります。だから、他の方の話を聞いていて、「あの人大変ねぇ・・・私は全然心配ないからラッキーだわ」って思ったと思います。

「自分の中にない在り方を、他の人が無理やりガチガチにしてもっているんだ」と気づいたと思います。他の方が真剣に相談しているときに、グー！っと何かを握り締めているというのも感じたはずです。

でも、「それと同じことを自分もやっているかもしれない」という余裕があれば、観念を手放そうとしたときに、どんどんシフトしていけます。それをヒントにして使っていただけたらなと思います。

では、約二時間、少し急ぎめでやりましたが、こんなにたくさんの方に来ていただいて、僕自身すごく楽しくできました。

どうもありがとうございました。

会場　（拍手）

司会
本日は、前里光秀さんありがとうございました。もう一度盛大な拍手をお願いします。

会場　（拍手）